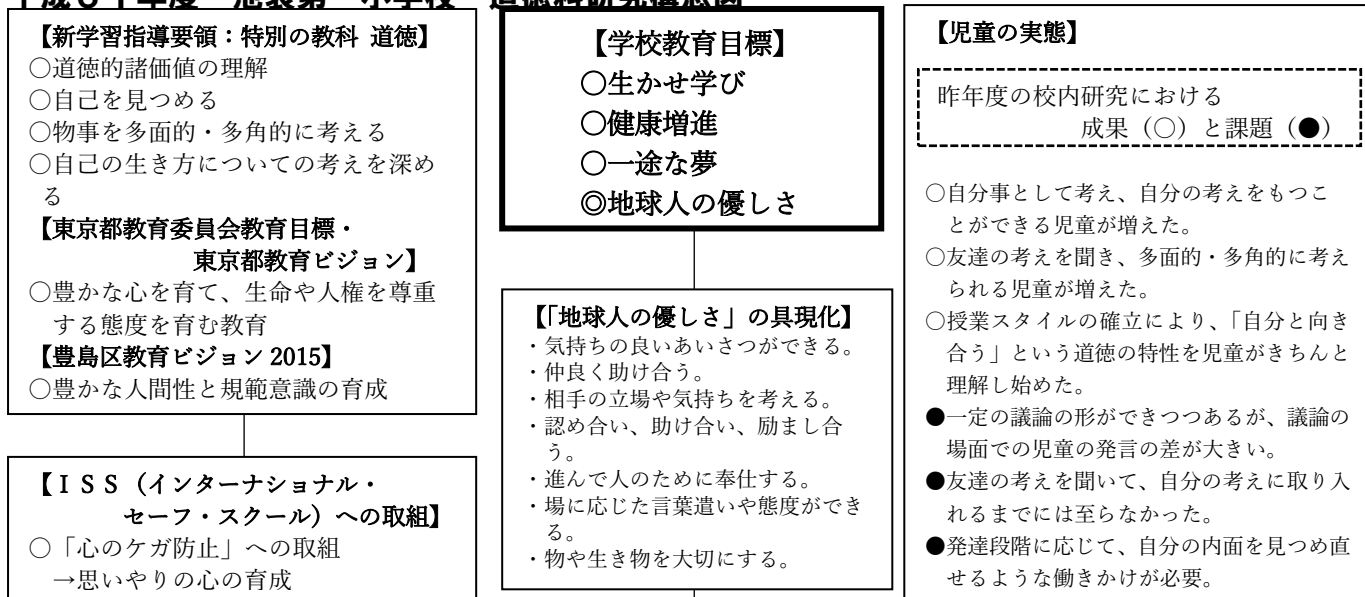


平成31年度 池袋第一小学校 道徳科研究構想図



研究主題

「豊かな心を育み、共によりよく生きようとする児童の育成」
～自己の内面を見つめ、考えを深める道徳科の指導方法の工夫～

<目指す児童像>

自己の内面を見つめ、考えを深められるような児童

①

②

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会
1年①自分の考えをもつことができる。 2年①自分の気持ちや変化に気付くことができる。 ②自分と友達の考えの違いに気付き、話し合いができる。	①自分の経験に沿った意見をもつことができる。 ②他者の考えを受け止めたり、共感したり、違いに気付いたりすることができる。	①経験を振り返りながら考えられる。 ②他者の思いをふまえ、自分の考えを再構築できる。

【研究仮説】

教師が指導観を明確にもち、発問構成を工夫していくことで、
自己の内面を見つめ、考えを深められるような児童に育つのではないか。

研究の視点(1)

「自己を見つめさせる
学習活動の工夫」

大前提→指導観の明確化(児童のよさと課題を明確にし、児童にどのようなことを考えさせたいのかを明確にする。)

- ①発問構成の工夫
→明確な指導観を受け、「学習問題の設定(問題意識をもたせる)→中心発問→見つめ直す発問」の流れを作る。
- ②書く活動の工夫

研究の視点(2)

「考えを深めるための
話し合い活動の充実」

- ①意図を明確にした話し合い活動(ペア、小グループ、全体)
→多面的・多角的に考えさせる。(昨年度の研究を生かす)
- ②板書の工夫
→児童の思考を板書で整理する。

研究の視点(3)

「評価の工夫」

- ①評価の観点の明確化
→「児童の学習活動から見た学びの姿」や「本時における具体的な発言や行動」を指導案の中で明確にしていく。